

知っておきたい乳がんのこと

「乳腺外科」を追加

乳がんは、日本人女性の11人に1人がかかるといわれ、女性が一生のうちで1番かかりやすいがんです。

また、日本では乳がん罹患率、死亡率ともに年々増加しています。

そのため、北播磨総合医療センターでは、開院以来、週2回の乳腺外来を設け、診療を行っていましたが、乳がん診療を行っていることがわかりにくかったため、10月から診療科に「乳腺外科」を追加しています。

患者さんや地域の医療機関に、乳がんの診療実施を広く周知する



とともに、地域医療の連携強化を図り、乳腺診療の充実に努めます。

問 北播磨総合医療センター

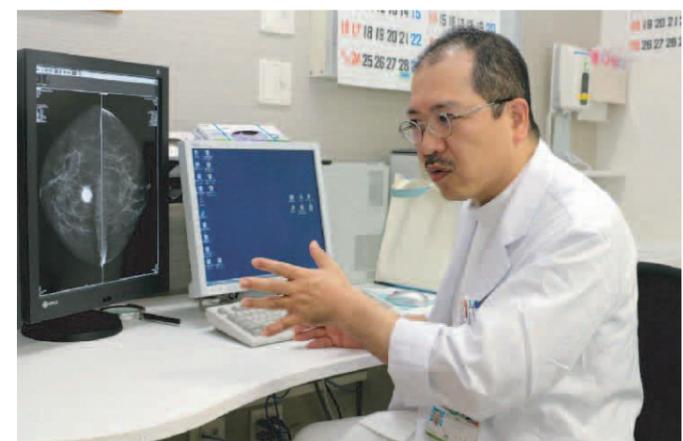
☎080-88000

定期検診・早期受診が肝心

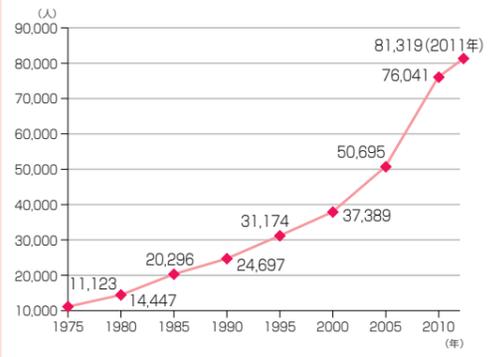
外科・消化器外科・乳腺外科部長

岡 成光

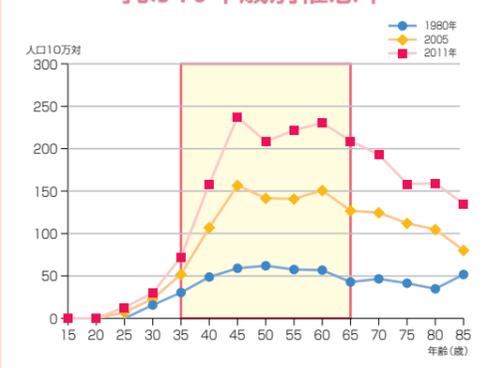
乳がんになるのは40代後半から50代が一番多く、子育てや仕事で忙しい時期になります。また、乳がんは他のがんと違い治療期間が10年単位ととても長いので、大切な時期を病気で過ごさなければいけなくなる可能性が高くなります。



乳がん罹患数



乳がん年歳別罹患率



資料：国立がん研究センターがん対策情報センターより

検査は痛い!?

中央放射線室放射線技師

世良彩華

乳がん検診をためらう理由として、マンモグラフィの痛みがあげられると思います。今回はその痛みの理由をお伝えします。

マンモグラフィは、乳房専用の装置でアクリル板と撮影台の間に乳房を引き出して挟み、圧迫し薄く伸ばして撮影します。その引き出しシと、圧迫シが痛みの原因です。乳房を引き出す理由は、で



もはっきり写し出すことができます。また、圧迫により乳房厚を薄くすることで、撮影に必要な放射線量を減らす事ができます。これ以上厚みが変わらない一定の圧になると自動で圧迫を停止しますが、どうしても耐えられない場合は、少し圧迫を緩めて撮影できますので、我慢せず撮影技師に伝えてください。またエコーによる検査も可能です。



きるだけ多くの乳腺を写し出すため、引き出しが不十分であったり、撮影時に怖がって腰を引いたりすると、乳房の深いところが撮影範囲から出てしまいます。するとその部分に病変があっても、結果は、異常なしとなってしまうます。乳房を圧迫する理由は、薄くすることで、病変と乳腺組織の重なりが減り、病変を検出しやすくするためです。しっかり圧迫固定することで、呼吸や動きによる画像のボケを防止し、ごく小さな病変



検査は女性技師が撮影します!



検査を受けるか悩まれている方へ

忙しいでなかなか検診に行く時間がとれないと思いますが、乳がん検診は自己検診ではわからない早期の発見に有効です。また、一度の検診では十分ではありません、定期的に検診を受けることが大切です。

当院のマンモグラフィ検査は、女性技師が担当しています。不安なことや心配なこと、検査に関する不明な点など、どんなことでも質問していただき、一度も検診を受けたことのない方はこの機会にぜひ受けてみてください。いつでも相談お待ちしております。